



住吉教会 2016 年度テーマ

「いつくしみ深く 御父のように」
—いつくしみの特別聖年—

キリストと共に復活させられたから 上にあるものを求めなさい

ジャン・ペンケレシ神父

教会の大祝日はいつも恵みをもたらします。今年の復活祭に次の言葉が心に深く響きました。

「あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい」(コロサイ 3:1~2)

キリストが復活されたとき私たちも共に復活しました！ イエスの復活は二千年前の出来事でありながら、こんにち、その復活を信じる私たちの中に働いています。「共に復活させられたのです」キリストの復活の力は私たちの内に働き、新しい命に生きる者に変えるのです。

信じている私たちは、キリストが神の栄光の中に生きておられることを知っています。キリストを信じない人々はその世界を知らないのです、彼らにとって存在しないものです。私たちはその世界を知っています。そこにキリストは栄光に輝いて生きています。肉眼では見えませんが、心の目をその世界に向けるならば、既にその不滅の国に入っています。

同じように、キリストの十字架上の死も私たちの中に働いています。「あなたがたはキリストと共に死んでいる」とコロサイ 2 章 20 節に記されています。イエスは、ご自分について行くために「自分を捨て、自分の十字架を背負う」(マタイ 16:24) 必要があると言われます。十字架の力は、自分を捨てて、古い自我に死ぬように私たちの内に働きます。

自分の努力だけでそれが出来ません。信仰生活は、神の助けを求めて掟を守れば天国に入ることだけに留まりません。今すでに、聖霊は私たちの内に住み、ご自分を完全に捨てて死に、復活されたキリストの死と命の力を絶えず私たちの内に働かせておられます。「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」(2コリント 5:17) 私たちは地上のものに引かれがちです。毎日神の言葉を十分に読んで、神と共に過ごす時間を作って祈れば、上にあるものは心に留まります。そうすれば、信仰生活が大きく変わり、喜びと力に満たされます。

2016年5月度住吉小教区評議会議事録

1. 日時:2016年5月15日(日) 11:05~12:14、出席13名、場所:教会1階第2会議室

2. 始めの祈り

3. 星の園幼稚園連絡・協議事項

特になし

4.

I 日程確認

ミサお知らせ、月報参照。

II 審議事項

(1) 神戸地区平和旬間行事、平和祈願ミサ: 8月6日(土)13時~、神戸中央教会、詳細後日。

(2) 初めて教会へ来られた方への案内: チーム紹介プリントよりも①広報作成の「教会案内」と「連絡網案内(電話・FAX・メール)」、維持費袋をセットして、個別に対面し説明の上、お渡しすること。

(3) 典礼チームより ①ミサ共同祈願(例文): 震災関連 新しい文章に替えることを承認(スライド)。
②聖週間の仮祭壇の聖櫃: 極めて高価なので、神戸中央教会から借用する。

(4) 救急用グッズの整備: OS-1(経口補水液)、タオルケット等整備(小聖堂聖歌棚)。担架は AED 下の BOX 収納

(5) 営繕チームより:

キッチン天井のコンセント用手元吊り下げキット設置承認。

教会入口モミの木: 枯れた箇所のカリ取り、源平桃毛虫の殺虫剤散布: 造園業者に依頼承認。

(6) ふっこうのかけ橋キャンプ: 8月5日(金)~7日(日)、神戸市立六甲山自然の家まや施設
住吉教会学校キャンプはこの行事に合流する。 申込〆切6月26日(日)、詳細後日。

(7) 夏のバーベキューパーティ: 今年も教会行事として実施承認。有志で準備し、参加者にも手伝っていただくこととする。7月31日(日)17時から、出会いの広場にて。
東ブロックの神父様方、信徒に案内する。

(8) 司牧チームと各地区(ABCD)責任者集まり: 6月7日(火)11:00から。

III 検討事項

上記 II に集約。

5. 終わりの祈り

☆次回評議会 7月17日(日)11:00から、第2会議室

次々会評議会 9月18日(日)11:00から、第2会議室

「ふっこうのかけ橋」支援募金のお願い

2012年1月の神戸地区宣教司牧評議会で承認を得て「ふっこうのかけ橋」プロジェクトが始まりました。その目的は、何よりも2011年3月11日の東日本大震災の時の福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の拡散の影響で家の外に出られず、ストレスを抱え込んでいる福島の子どもの「放射能のない場所で思い切り遊びたい」という願い、「放射能を心配しなくていい場所で子どもを思いきり遊ばせてあげたい」という福島の母たちの願いをかなえ、神戸でわずかな間だけでも思い切り羽を伸ばしてほしい、ということにある。

福島の「ふく」と神戸の「こう」を結び合わせて「ふっこう」です。

福島と神戸が力を合わせることで、一日も早く復興を実現できるように、子どもたちが現在と未来を結びつけるかけ橋になるようにとの願いが込められています。かつて阪神淡路大震災で廃墟となり、灰燼の中から奇跡の復興を成し遂げた神戸の思いと力、知恵を結集して、福島の未来である子どもたちのために出来る限りのことをしてあげたいと思います。どうぞ皆様、「ふっこうのかけ橋」という名前と、そこに込められた意味を心のどこかにお留おきください。

(神戸地区だより「つながり」2012年4月号より)

このような経過で「ふっこうのかけ橋」プロジェクトが活動を始め5回目になりました。今年も福島の子どもたちとお母さんを神戸に招待する計画が進んでおり、8月4日(木)から8日(月)まで神戸に滞在し、5日(金)から7日(日)まで「神戸市立自然の家」摩耶施設で行われる神戸地区教会学校合同キャンプに参加して神戸の子どもたちと有意義な時間を過ごしてもらうことになっています。

このプロジェクトを成功させるために神戸地区宣教司牧評議会は各小教区に募金を呼び掛けることになりました。

神戸と福島の子どもたちの未来のため、どうぞ皆様、募金にご協力ください。

評議会より

皆様へ

現在病気や高齢のために教会に行くのが困難な方で聖体、病者の秘跡、その他の祈り等を必要とされる方はご遠慮なく神戸中央教会(電話番号:078-221-4682)までお申し出ください。緊急の時も同じようにしてください。

コンサルタ神父様、傘木神父様が対応してまいります。

